

エアコン掃除の常識（異文化言い分EVEN）

著者	荒神 衣美
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	208
ページ	39-39
発行年	2013-01
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00003798

エアコン掃除の常識

荒神衣美

今年の日本の夏も暑かった。節電、節電と頭ではわかっているけど、手はついエアコンのスイッチに伸びてしまう。そんな猛暑続きのある日、家のエアコンから悪臭がすることに気づいた。そういえば海外派遣で家を留守にして二年、エアコン掃除をしていない。そこで思い切って、お掃除大手

のD社にエアコン掃除をお願いすることにした。約束の日、D社の技術者は少し早めの時間に我が家に来た。持参の清潔なスリッパを履いて入室し、手際よく作業を開始した。きつちりとビニール囲いが取り付けられたエアコンの内部に、技術者は嫌な顔ひとつせず、特殊な装置で水を吹き込んでいく。その水はビニール囲いにきれいにキャッチされ、下に設置されたバケツのなかにうまく流れていく。その美しい作業光景を眺めているうち、つい半年前にベトナム・ホーチミンでエアコン掃除業者を呼んだ日の記憶が鮮明によみがえってきた。

半年前、筆者は海外派遣で家族とともにホーチミン市に暮らしていた。二年の任期も残すところあと四カ月となった一二月のある日、寝室のエアコンから嫌な臭いが発せられるようになったため、大家にエアコン掃除を願った。悪臭を確認した大家が掃除を依頼した個人業者は、週末の午後、約束を完全に無視した時間に我が家に来られた。玄関先で草履を脱ぎ捨て、薄黒く汚れた足で入室し、「臭いエアコンはど

れ？」とぶつきらばうに尋ねてきた。

さて、洗浄作業が始まると、日本のD社が使用するのと似たようなビニール囲いがエアコンに取り付けられはしたが、そこからの作業光景は日本のそれとは別世界であった。エアコン内に吹き付けられた水はビニール囲いの上で跳ね踊り、見事に外に飛び散っていく。作業員のお兄ちゃんの顔にも水が散るのか、お兄ちゃんはあからさまに嫌な顔をしている。床は水浸しになり、さらに作業中のお兄ちゃんが汚れた足でその上を歩くもので、白かったタイル床はみるみるうちに灰色に変わっていった。作業が終わった後には家中泥よこれで大変なことになっていた。その日は週末でお手伝いさんもお休み、家族で一時間かけて床掃除をした。

事後掃除が大変ではあったが、エアコン内部はきれいになってすっきり。これで帰国までの安眠は確保された、と安心したのも束の間、一週間もしないうちに、またエアコンから悪臭がするようになった。またあのエアコン掃除かと落ち込みつつ、子供が睡眠中にカビを吸ってしまっているのも嫌なので、大家を通じて再度クリーニングを依頼することにした。はたまた約束とは微妙に違う平日の朝にやってきたお兄ちゃん「こないだ掃除したのにまだ臭うんだって？」と不満そうな顔をしつつ、「エアコンのチェックを始めた。エアコンから発せられる臭いを確認したお兄ちゃんも少し考え、それからこの部屋で子供が寝ているの？」と聞いてきた。なんと察しのいいこと！ 子供がカビを吸っては困ると思っているのだ！ 私は勢いよくうなずいた。すると、なんとお兄ちゃん、「やつぱり。この臭いは子供のおしっこの臭いがエアコン内に吸収されたものだよ。」と信じられない一言

を発した。エアコンを使うと室内の空気が循環してエアコン内に入り込むため、子供の寝室ではおしっこの臭いがエアコン内部に染みつくことがよくあるのだとか。そんなわけがないと爆笑する私に対し、お兄ちゃんは「姉さんは機械に詳しくないから知らないんだ。ベトナムではよくあることだよ。体に害はないからこのままで大丈夫。」と断言し、なんの作業もせずに帰ってしまった。

私は誰かにこの話を伝えずには居られず、午後になって家にお手伝いさんに早速話して聞かせた。もちろん、私は彼女の大爆笑を期待していたのだが、話をひととおり聞いた彼女は一言、「そうよ。」と当然のようにいった。呆然とする私を尻目に、お手伝いさんは「前にNK（大手家電量販店）の店員がそういっていたの。間違いないわよ。」と自信たっぷりであった。

夕方、電話をしてきた大家（製薬会社副社長）にこの話をしたら、やつぱり「そうそう。だっておしっこの臭いだったじゃん。」と思いついたように納得され、私は完全なる敗北を悟った。日本の常識を振りかざしてエアコンの悪臭を取り除いてもらおうなどと思った私が馬鹿だった。これはおしっこ臭であつてカビなどではない、体に害はないのだ、と自分に言い聞かせ、しかしできるだけそのエアコンの使用を控えながら、帰国までの日々を過ごしたのであった。

こんなことを思い出しながらD社の作業をみていると、どうしてもこのプロフェッショナルの臭いを聞かすにはいられなくなった。「エアコンの臭いに子供のおしっこが関係していたりしますか？」D社の技術者は一瞬びくりしたような顔をし、そして冷静にこう答えてくれた。「子供のおしっこの臭いは、窓を開ければ消えます」。

こうじん えみ/アジア経済研究所 東南アジアII研究グループ

専門はベトナム地域研究、農業農村経済。農産物の生産流通消費および農家経済の変容に関心を持って研究している。